

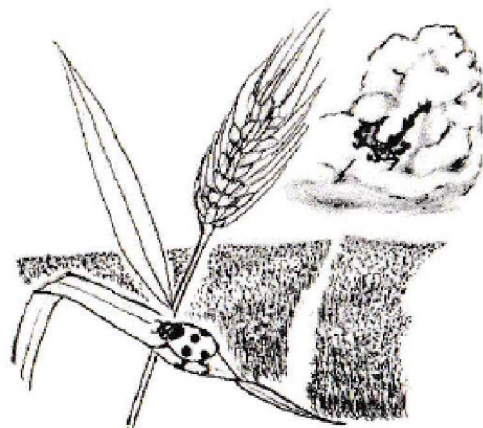
# ドリフトへの階段 第25回

《エッセイ版》

佐藤 洋祐

「このJ-POPを歌うたいのバラッド(斉藤和義)」

「嗚呼、歌うことは難しいことぢやない。ただ声に身をまかせ頭の中を空っぽにするだけ」今回は、こんなくだけりから始まる90年代の人気ポップナンバー、斉藤和義さんの「歌うたいのバラッド」を紹介させていただきます。10代後半からほとんどの人生の時間をジャズ一辺倒で歩いてきた私。この同世代の誰もが知る曲を最初に聞いたのは、アメリカより帰国後、地元佐倉市で主催していたジャムセッションでのことでした。なので、今からほんの2、3年前。ジャムセッションとは、音楽の演奏を楽しみたい方たちが集まり、お互いの接点を上手に見つけ、尊重しあいながら一緒に演奏を楽しむ集い。毎月いらっしやる常連さんや、人生初のジャムセッションに恐る恐る参加される方、ピアノやドラム、ベースや管楽器など楽器を演奏される方や、歌を歌いたい方等々、様々な顔ぶれで賑わいます。長い打ち合わせもなく、うまくいったりいかなかったり、それはそれなりに次々に楽しく演奏が繰り広げられます。そこに初めておいでになったギターリストの男性に、「何か一緒に演奏する曲を決めていただけますか?」と尋ねると、彼は「ジャズの曲を知らなくて。でも、Jポップなら唄えますが、いいでしょうか?」と、遠慮がちにコールされたのが、この「歌うたいのバラッド」でした。その曲を知る人、知らない人、大好きな人、初めて聞く人、皆一緒にその曲を演奏しました。彼の歌を聞きながら、耳を頼りに私も演奏に参加します。リスナーの方々の手拍子、中には感激の涙を浮かべながら「この曲、大好きなんだー!」と喜ぶ方も。



私も思わず、あー、音楽って本当にいいなと、しみじみ感じて、本当にその日のセッションのクライマックスになっちゃた。そしてふと、あれ?この感じ、よく知っているぞ、と。この演奏者もリスナーもその場所さえもが一体になっているような感じは、そう、私が一緒に世界中を飛び回って演奏していたグレゴリー・ポーターのショーで、会場の数十人、時には何千、何万にもなるようなリスナーの方たちも一緒に唄ったり涙を流して聞いているような、あの場の雰囲気そのものでした。歌いたい、奏でたいという純粹な欲求と、聞きたい、一緒に音楽を楽しみたいという原始的な衝動、それらが歌によって一つになっていくあの瞬間。「空に浮かんでる言葉を掴んでメロディを載せた雲で旅に出かける」。そんな瞬間。そう、歌うことは、難しいことぢやない。いやいや、歌うことは難しいよ、歌うにも演奏するにもテクニックや知識、経験が必要に決まっているでしょ・・・そんなことは、この頭の固い、頑固者の愚かな私にさえも、わかっております。脱サラ&独学ではありますが、おかげ様で曲がりなりにも音楽を生業としてここまでやって来ることができましたので、技術習得の大切さや、道を極めようとするこの素晴らしさも、よくわかります。でも、物事には「順序」というものがある。歌うことは、その胸に本当に強く伝えたい心があるなら、それは難しいこととでなくとも、人々の心をすこいパワーで繋げることが出来る。一方、もし仮にそこにハートがなければ、どんな技術に裏打ちされた演奏も、ただの感心、「へー、すこい」で終わってしまう。この大事な「順序」をついっつい忘れてしまいがちな浅はかな私に、こんな素敵な歌詞が優しく愛をさとしてくれます。

私の唄う「歌うたいのバラッド」を動画サイト「YouTube」にて視聴いただけます。このQRコードを読み取るか、YouTubeにて「佐藤洋祐 ドラゴンへの階段 歌うたいのバラッド」と検索して下さったら見つけていただけます。私が動画を載せている「フォーカススタジオプロジェクト」というチャンネルは、千葉県のある有志の若者達による地域おこしを目的とした団体の動画チャンネルです。

↑(上のQRコードを読み取ってください)

佐藤 洋祐 (サトウ ヨウスケ)

ジャズミュージシャン。サクソフ奏者としてグラミー賞を2度受賞、ノミネートは4度。海外での活躍で世界的に高い評価を得た。その後2015年末千葉県に住まいを移し現在に至る。2019年よりシンガーとしても活動を開始。

挿絵 TAKAKO



## 水曜朝市 再開しました!

佐倉市新町通りローソン駐車場で開催していた水曜朝市(小雨決行)は令和3年度4月から新町おはやし館前に場所が変わりました。開催時間は午前6時から8時半。武井八百屋、かぼちゃの店、委託販売・パンの麦匠、高野水産、サンテラミート・花屋が出店します。★おはやし館隣地吉田様の駐車場、及び小川園新町本店向かいの駐車場をご利用になれます。